

平成 29 年度龍ヶ崎椿展・県植物園椿展報告

事務局 小泉不二男

《第 9 回龍ヶ崎椿展報告》

9年目を迎えた龍ヶ崎椿展。会場はいつもの「どらすて（旧商工会館）」。開催期日も例年通り 4月の第一日曜日。天気に恵まれ、220名の来場がありました。



（左）テーマの「肥後椿」コーナーには、前週の土浦椿展とは異なる品種も展示され、わずかな時期のずれで別の品種を楽しむことができました。

（右）開場と同時に来場者への切り枝をプレゼント。押すな押すなと詰めかけたお客様に、担当の会員がてきぱき切って蕾付き枝を差し上げました。



（左）今回も、宮本正子さんが見事な看板を作成。足元に飾られた椿とマッチして、お客様を迎えることができました。

（右）のぼり旗で賑やかになった会場の「どらすて」。右側は街起こしで全国に知られる龍ヶ崎コロッケの常設販売所。椿を見てコロッケをお土産にするのが龍ヶ崎椿展の行動パターン。お客様はどちらも楽しみだとか。



(左・右とも) 植竹亭さん作出の金魚葉椿の新種。

花は吹っ掛け絞りの美花。花弁も整って一重ならではの気品を備えています。「吹っ掛け金魚」とでもいうべきか、あるいは江戸時代の伝統的な表現を使って「飛白(かすり)金魚」とでもいうべきか。変わり葉好きの会員が何度も立ち戻って見ていました。



(上3枚とも) 奈良東大寺二月堂のお水取りで使われる糊こぼしの造花。松明の火の粉をあびて無病息災を祈るお水取り。その間、二月堂の須弥壇に飾られる糊こぼしの造花を宮本正子さんが作られました



糊こぼし (出品：植竹亭)



奈良東大寺開山堂糊こぼし

左 奈良三銘椿の一つ「糊こぼし」(椿展出品)

今回、お水取りの造花の出品時に期せずして開花、出品されました。名の由来には、白斑が糊をこぼしたようだ、など諸説あるようです。

同 右 奈良東大寺開山堂糊こぼし

「糊こぼし」といえばこの一枚。数ある椿写真の白眉。入江泰吉撮影 「椿」
(渡辺武・安藤芳顕著 昭和55年 家の光協会刊) 口絵



受付風景



実行委員会

(左) 受付係は、野口宣二さんと植竹亨さん。ともに龍ヶ崎市内在住会員。椿展会場が会員とご近所や同級生などと年に一度の交歓の場として恒例になっています。このアットホーム感が龍ヶ崎椿展の特徴。

(右) 実行委員記念写真

龍ヶ崎椿展は市内在住会員を中心にした実行委員会(吉田盈夫委員長)が中心。龍ヶ崎商工会や市役所とも連携して、多くの人との繋がりによって支えられています。

来年は第10回目の節目を迎えることになります。

《第6回茨城県植物園つばき展報告》

春の椿展の締めくくりとなる茨城県植物園椿展は、4月9日（日）に開かれ、110人の来場者がありました。昨年に引き続いて当日雨天のため、お客様の出足が鈍く、予想の3分の1程度でした。

午後からは天候が急速に回復し、ツバキファンが次々と来場され、いつもの椿展風景になりました。



県植物園作成ポスター



会場風景

(左) 県植物園では、これまでも毎回、ポスターを作製。新聞等への広報活動にも活用されています。

(右) 展示室は、一年を通してバラ展などに使われる展示会専用施設。棚の配置も希望した位置に既に準備済み。職員の藤澤正巳さん、小林慎行さん、小野村仁子さんには、今回も大変お世話になりました。

開催日は椿シーズンまさにたけなわ。あちらこちらの庭先で椿が満開の中、遅咲き品種が咲き出して最後の椿展を飾りました。



石鎚



縺子重ね



黒椿



ブラックマジック



香港椿



五色八重散椿

鉢物・盆栽



初黄 (出品 小野村弘)



赤羽衣 (出品 植竹亭)



藪椿 (出品 小野村弘)



光源氏 (出品 植竹亭)



港の曙（出品 中山徹）



太神楽（出品 中山徹）

盆栽も、今回初めて出品されたものばかり。椿展がなければ、もったいないことに愛好家の棚でひっそり咲いているだけのことでしょう。



様々な花器が使われるのも県植物園椿展の特徴。
地元会員の植田文弥実行委員長と大子町の吉成誠美実行副委員長には、今回もいろいろとお世話になりました。
以上で、今春の椿展報告といたします。